# 英語力向上における単語テストの有効性
## ―― TOEICを使った試み ――

# How Vocabulary Test Affects Improvement of English Ability
## ―― How Regular Vocabulary Test Scores Relate to TOEIC Score ――

山科　美智子
YAMASHINA Michiko

Abstract: Building vocabulary is one of the most important ways to improve learners' comprehensive English ability. However, in an EFL setting, it can be difficult to efficiently expand a learner's vocabulary. Memorizing words can be boring, and it is difficult to maintain the motivation necessary for building vocabulary. Because TOEIC is one of the principal tests for measuring English ability in Japan, I conducted research to determine how teachers can increase their students' TOEIC scores by developing vocabulary skills. I facilitated vocabulary-building tests in each class using a TOEIC vocabulary book with over-lapping reading and pair work in which students give quizzes to each other about the meaning of the vocabulary. Also, learners tracked their test scores themselves by writing their scores on their record sheets. After engaging in these activities, the students improved their TOEIC scores; the students who had scored well on the vocabulary tests showed more improvement than those with lower scores. The results showed us the effectiveness of these vocabulary-building activities to develop comprehensive English skills.

Keywords: TOEIC, read aloud, vocabulary, test, pair work

## １．はじめに

英語力を向上させるためには、ボキャブラリーを増やすことが大切な手段のひとつであることは、異論がないと思われる。一方、効果的なボキャブラリービルディングのための方法は様々であり、どういった方法が効果的であるのかは確立されていない。

本論文では、EFLセッティングにおいて、学生の英語力を短期で伸ばすために、４つの方法を取り入れたボキャブラリービルディングを行い、その成果をTOEICのスコアで検証した。その４つの方法とは、①ターゲットの単語単体ではなくターゲットの単語をフレーズに入れ込んで、フレーズごと覚えられる単語帳を使用すること、②オーバーラッピングリーディングを取り入れネイティブの発音をまねしながら音読するアクティビティを取り入れること、③ペアで問題を出し合って確認するアクティビティを取り入れることにより受け身ではないアクティブなボキャブラリービルディングができるようにすること、④授業の始めに毎回テストを行うことで、テスト準備のためにボキャブラリーを勉強する習慣をつけさせること、である。このボキャブラリービルディングの方法がどのようにTOEICスコアの向上に効果的であったか、データとアンケートで検証していきたい。

## ２．ボキャブラリービルディングの方法と背景

ボキャブラリービルディングには様々な方法があり、どういった方法がよいのかは確立されていない。そこで、記憶やスキル定着のメカニズム等を参考にしながら、以下の４つの項目をボキャブラリービルディングに取り入れた。

### ２．１　教材

ボキャブラリービルディングを行う上で、英単語帳などの教材を使う場合とそういった教材は一切使わず、リーディングのテキストなどから学習者が知らなかった単語をそのたびにピックアップして辞書を引き記録する方法もある。後者の方法も有効ではあるが、TOEICには、場面設定によって出やすい単語や頻出のフレーズ、ビジネス関係の用語などがあるため、TOEIC用のボキャブラリーブックを用いることが有効と判断した。

TOEICのボキャブラリーブックは、単語単体で覚えさせるものではなく、フレーズで覚えさ

せる「TOEIC L& R TEST 出る単特急　金のフレーズ TEX 加藤著　朝日新聞出版」[1]（以下、「金のフレーズ」と呼ぶ）を使用した。英単語は、単体で意味だけ覚えるより、どういった前置詞との組み合わせで使われるのか、動詞の場合は、目的語に人を取るのか、ものを取るのかなどの使い方も含めて暗記してしまうことが効果的である。またどういった単語との組み合わせで使われやすいか、コロケーションまで暗記すると非常に効率が良い。この教材は、ターゲットの単語をフレーズの中に赤字で入れて、赤いフィルムでページを隠し、黒字のフレーズを見ながら中に入った赤字の単語を答えながら覚える形式で作られている。単語を覚えつつ、その単語を含んだフレーズも覚え、より大きなチャンクで暗記することを目的として作成されている。大きなチャンクで覚える、といっても人間の記憶はそれほど長い文章を一度には覚えられないものだが、この教材はフレーズに使われる単語を７単語以内に絞っている。アメリカの心理学者ジョージ・ミラーの研究によると、人間の短期記憶の記憶容量は基本的に７つであり、プラスマイナス２の誤差があるといわれている[2]。この７つというのは、意味を持った「かたまり」の数である。つまり、英文字が組み合わさったかたまりである英単語が７つ以下で構成されるフレーズは、人間の記憶構造にそれほど大きな負荷をかけずに覚えられる長さなのである。このため、「金のフレーズ」はボキャブラリービルディングの効果が出やすい教材だと判断した。この教材は、掲載されている1000のフレーズが600点レベル400語、730点レベル300語、860点レベル200語、990点レベル100語に分かれており、基本的単語から覚えていけるように構成されている。

### ２．２　オーバーラッピングリーディング

音読は英語力向上に大きな効果があることは多くのリサーチによって検証されている。音読には、オーバーラッピング、シャドーイング、リピーティングなど様々な種類があり、負荷も異なってくるが、オーバーラッピングは、テキストを見ながらCDに合わせて英文を読んでいく音読の方法で、負荷はそれほど高くないが、多くのメリットが挙げられる。第一に、ネイティブの声に合わせて音読することで、テキストを読みながら発音を確認し、正しいリズムやイントネーションを身につけることができる。第二に、注意深く聞きながら発音することで、リエゾンやリダクションなど英語特有の音の変化に気づきリスニングスキルを伸ばすことができる。第三に、音読をすると英語の語順のまま情報が入ってくるため、和訳の時にやりがちな、日本語の語順に合わせた返り読みをせずに、英語の語順のまま意味を理解する習慣がつく。そして第四に、耳にした英語を頭の中で早く理解する力が付き、数語の大きな塊であるチャンクで意味を取れるようになるため速読力が向上する。オーバーラッピングリーディングには以上に挙げた４つのメリッ

トがあるが、特にTOEIC頻出のフレーズをオーバーラッピングで音読することは、そのままリスニングスキルとリーディングスキルの向上に直結すると考えられる。

### ２．３　ペアワーク

オーバーラッピングリーディングの後、ペアになってひとりが英語のフレーズを発音し、ひとりがその意味を答えるアクティビティを１分間行い、その後役割を交代してまた１分間行う。このアクティビティでは、出題する側は直前にネイティブの声に合わせて音読したフレーズを今度は自分だけで正しく発音する必要がある。意味を答える側は、素早く言われたフレーズの意味を理解して答える必要がある。１分間という時間をストップウォッチで測ることにより、緊張感が生まれ、密度の濃いアクティブラーニングを行うことができる。また、ペアワークで答えられなかった問題や間違えた問題は記憶に残りやすくなり、ボキャブラリーの増強にも役に立つ。

### ２．４　テスト

毎回テストを行うことで、ボキャブラリーブックを勉強する習慣がつき、より真剣にボキャブラリービルディングの課題に取り組むことができる。家での自習、授業の冒頭でのオーバーラッピング、そしてペアワークで声に出して単語やフレーズを覚えた後でテストをすることで、より記憶を活性化させた状態でテストに取り組むことができる。また、毎回のテストのスコアを記録シートに書き込んでいくことで、いい点数を続けたいというモチベーションにもなる。

以上のような理由で、これらの方法を取り入れて、TOEICのボキャブラリーを効果的に習得させるために、６段階のステップを踏んで、毎回の授業でボキャブラリービルディングに取り組んだ。以下は、この取り組みの検証結果である。

## ３．調査内容

### ３．１　対象者

TOEICクラスを履修する関東在住の女子短大１年生24人を対象とした。TOEICの授業は週２回行われる。対象者は春学期にすでにTOEICを学んでおり、IPテストを受験済みである。

### ３．２　調査時期

2018年９月～2018年12月

この３か月の調査期間に行った対象者の個々のボキャブラリーテスト20回分の平均点と３か月後のTOEICスコア、及び開始時のスコア（春学期のスコア）との差を比較し、スコアの伸びを分析した。

### ３．３　教材

TOEIC L & R TEST 出る単特急　金のフレーズ　TEX 加藤　朝日新聞出版

### ３．４　ボキャブラリービルディングのルーティーン

以下のルーティーンで毎回授業の冒頭にボキャブラリービルディングを行った。テストや記録シート記入も入れて、15分以内に収まるようにした。

①TOEICの単語帳「TOEIC L & R TEST 出る単特急　金のフレーズ 」のフレーズを毎回授業の開始時に50ずつテストすることを学生に告げ、毎回予習をしてくるように習慣づけをする。この単語帳は音声をダウンロードできるようになっているので、各自でダウンロードして音声と一緒に覚えることを習慣づけるよう指導する。

②授業の始めに、その日のテスト対象になるフレーズ50問をCDとともにオーバーラッピングして音読する。CDの音声はネイティブスピーカーのナチュラルスピードで、学生が一緒に音読するには速すぎるため、音声のスピードを１段階落として、オーバーラッピングしやすい速度で練習する。この時点で、発音があやふやな単語は発音を確認し、意味があやふやな単語は意味を確認するように促す。

③ペアを組み、ひとりがその日のテスト範囲からフレーズを出題し、もう一人が意味を日本語で答える、というアクティビティを、１分間ずつ交代で行う。出題する側は、フレーズや文章を正しく発音するように注意する。１分間にいくつのフレーズが答えられるか競争し、意味がすぐ答えられるように訓練する。３秒たっても答えられない場合は、出題した人が、意味を教える。

④10分間で指定した50のフレーズの中から、20問のフレーズの意味を問うテストを行う。テストは、フレーズかあるいは短い文章が書かれていて、そのフレーズの意味や文章の意味を日本語で書くようになっている。

⑤ペアでお互いにテストを交換して採点する。

⑥学生は自分の記録シートにボキャブラリーテストのスコアを毎回記録し、その推移を検証していく。

### ３．５　検証方法

①３カ月の調査期間に行った20回のテストの平均値と、TOEICのスコア、春学期から秋学期のスコアの伸びの３種類の値を比較し、単語テストの効果がどのように出ているか検証する。

②学生にアンケートをとり、毎時間のテストは自分の英語力向上に役に立ったと思うか、リスニング力とリーディング力への影響、毎回の勉強時間などについて調査した。

以下は、学生に実施したアンケートである。

アンケート

毎回授業で行う単語テストに関してお答えください。

１．毎時間授業で行う単語テストは、TOEICのスコア上昇に効果はあると思いますか？

いいえ　　どちらともいえない　　はい

２．単語テストのおかげで、リスニング力が伸びたと思いますか？

いいえ　　どちらともいえない　　はい

３．単語テストのおかげで、リーディング力が伸びたと思いますか？

いいえ　　どちらともいえない　　はい

４．単語テストがあってよかったと思いますか？

いいえ　　どちらともいえない　　はい

５．単語テストのために毎回どれくらい勉強しましたか？

平均　　時間

６．単語テストのメリットは何だと思いますか？　自由にお書きください。

## ４．結果

ボキャブラリーテストとTOEICスコアの伸びの関係性と、学生に行ったボキャブラリーテストのアンケートを分析していく。

### ４．１　ボキャブラリーテストとTOEICのスコアの関連性

以下は、TOEICクラス受講生のボキャブラリーテスト20回分の平均点（満点は20点）を、11点～13点、14点～16点、17点～20点のレンジに分け、各レンジグループの学生のTOEIC スコアの平均点と春学期終了時と秋学期終了時のTOEICスコアの差を表に表した。ボキャブラリーテストの平均点が10点以下の学生はいなかったため、このレンジグループに、調査対象者24人がすべて含まれている。

表１　ボキャブラリーテストの平均点とTOEICスコア平均の比較

| ボキャブラリーテスト平均点 | TOEICスコア平均 | 春学期と秋学期のリスニングスコアの差 | 春学期と秋学期のリーディングスコアの差 | 春学期と秋学期のＴＯＥＩＣスコアの差（Total） |
|---|---|---|---|---|
| 11~13点のグループ | 401 | +3.5 | +2.8 | +6.3 |
| 14~16点のグループ | 488 | +25 | +3.3 | +28.3 |
| 17～20点のグループ | 611 | +34.0 | +39.0 | +73.18 |

以上の結果から、毎回のボキャブラリーテストでコンスタントに高い点数を取り続けた、平均17～20点のレンジの学生11人の学期が始まる前と３か月後のTOEICの得点を比較すると、平均で73.18点伸びており、ボキャブラリービルディングの効果がはっきり表れている。リスニングの伸びは平均で＋34.0点、リーディングは＋39.0点で、若干リーディングの伸びの方が大きいが、バランスよくリスニングもリーディングも伸びている。一方、平均14～16点のレンジの学生のTOEICスコアの伸びは28.3点にとどまっており、上位のグループより44.88点下がる。リスニングが平均25点伸びた一方、リーディングは3.3点の伸びにとどまった。ボキャブラリーテストの平均点が11点から13点のグループレンジの学生の伸びは6.3点の伸びにとどまり、中間グループの伸びと比べると、さらに22点下がっている。リスニングとリーディングの伸びは同じくらいである。

レンジ別のグループごとに点数を比較すると、以上のように、ボキャブラリーテストの平均点とTOEICスコア、そしてスコアの伸びは比例するため、ボキャブラリーテストの点が高いほどTOEICスコアは伸びているといえる。

しかし、一方で個別に結果を細かく見ていくと、必ずしもボキャブラリーテストの平均点とTOEICスコアの伸びがきれいに連動しているわけではないことがわかる。例えば、ボキャブラリーテストが平均18点だったある学生のスコアの伸びは175点であったり、平均15点だった学生

のスコアの伸びが130点であったのに対し、20点満点取り続けた学生のスコアの伸びは、35点であった。この学生は、春学期のTOEICのスコアが750点、秋学期が785点であったため、高得点のレンジでスコアを伸ばす難しさがあったかもしれない。彼女の場合は、リーディングで60点伸びていたが、リスニングが25点下がっていた。

平均が19点だった学生のスコアの伸びはまちまちで、５点から105点まで幅が広い。11～13点のグループレンジの学生は、伸びが大きかった学生と春学期のスコアを下回った学生が混在しており、平均点としては小幅な伸びになっているが個人差が大きい。TOEICスコアを伸ばすためには、語彙力だけではなく、文法、リスニング、リーディングスキル等、様々な要素があり、語彙力が伸びたとしても必ずしもそれがスコアに直結するわけではないことも明らかである。ただ、ボキャブラリービルディングのために行ったオーバーラッピングリーディングやペアワークは、ネイティブの発音やイントネーションを聞き取り発話することで、リスニング力の向上に効果的であっただけでなく、英語を語順のままに理解するリーディング力にも寄与した結果、全体的には上の表のような結果が導き出されたと推察できる。

### ４．２　アンケートの分析

学生は、このボキャブラリーテストとTOEICのスコアの伸びに関してどのように考えているだろうか。アンケートの結果を分析してみたい。

表２　アンケート結果

| | いいえ | どちらともいえない | はい |
|---|---|---|---|
| 質問１　TOEICスコア上昇に効果がある？ | 2% | 20% | 78% |
| 質問２　リスニング力上昇に効果がある？ | 4% | 34% | 62% |
| 質問３　リーディング力上昇に効果がある？ | 0% | 33% | 67% |
| 質問４　単語テストがあってよかったか？ | 0% | 25% | 75% |

質問５のボキャブラリーテストに費やした勉強時間に関しては、平均 20分から２時間まで幅があり、対象者が１回のボキャブラリーテストに費やした平均勉強時間は１時間18分であった。

質問６のボキャブラリーテストのメリットに関しては以下のような意見が多かった。

・週２回必ずテストがあったので、勉強する習慣がついた。

・語彙力が増えて、リーディング問題が解きやすくなった。

・文章の意味がわかるようになり、問題を解くことが楽しくなった。
・聞き取れるリスニング問題が増えた。
・TOEICを勉強するモチベーションになった。
・記録シートに自分のテストの点数を毎回書いていくことで、毎回いい点数をとろうというモチベーションが維持できた。

このアンケートは、TOEICテストの結果が出る前に調査を行っているため、学生は自分のスキルが伸びたかどうか、実際の結果を知る前に自分が感じている旨を答えている。

このアンケート結果を見ると、ボキャブラリーテストはTOEICのスコアの上昇に効果があると実感している学生は78％に上り、リスニング力あるいはリーディング力がボキャブラリーテストのおかげで伸びたと感じている学生はそれぞれ62％、67％であり、リーディング力の方に効果があったと感じている学生の方が若干多い。実際には、平均のリスニングのスコアの伸びが20.8点、リーディングのスコアの伸びが15.0点で、リスニングの方が伸びているのであるが、学生のアンケートによると、語彙力はリーディング力により直結する、と考えている傾向がうかがわれる。

単語テストがあってよかったかどうかに関しては、75％の学生があってよかった、と答えている。その理由としては、ボキャブラリーテストのメリットとして上記に記した通りである。また、記録シートに毎回自分のテストスコアを記録していくことは自己モニターの効果があり、モチベーションの持続に役立ったようである。ボキャブラリーテストがないほうが良かったと答えた学生はいなかったが、どちらともいえない、と答えた学生は25％であった。理由としては、覚えてもすぐ忘れてしまう、暗記すること自体が嫌い、単語テストで正解していても、実際のTOEICの短文穴埋めや長文読解の問題となるとわからなくなる、といった理由が挙げられた。

## 5．おわりに

ボキャブラリーテストの点数レンジグループの平均値から結果を見ると、ボキャブラリーテストの結果とTOEICのスコア、そしてスコアの伸びは明らかに連動しており、予習、オーバーラッピングリーディング、ペアワーク、テストという流れで行った一連のボキャブラリービルディングがTOEICスコアの向上に効果的であったと結論付けることができる。また学生へのアンケート結果を見ても、ボキャブラリーテストは勉強の習慣づけやボキャブラリービルディング

に効果的であったと学生が実感していることを裏付けることができる。

しかし、個々の結果には幅があり、語彙力の伸びを必ずしもスコアに結び付けられなかった学生もいる。そういった学生は、なぜ語彙力の伸びを直接スコアの伸びに結び付けられなかったのか、どのように語彙力と文法力、リスニング力、読解力をうまく連動させて全体的な英語力につなげていくかが今後の課題である。

## 注

1．TEX加藤(2017)TOEIC L & R TEST出る単特急　金のフレーズ　朝日出版

2．George A. Miller(1956)The Magical Number Seven, Plus or Minus Two: Some Limits on Our Capacity for Processing Information, Psychological Review

## 参考文献

門田修平（2015)「シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学」コスモピア株式会社

Yvonne S.Freeman, David E. Freeman(1998)ESL/EFL TEACHING Principals for Success, Heinemann.

Rosamond Mitchell, Florence Myles(2004)SECOND LANGUAGE LEARNING THEORIES, Hodder Edition

Jim Trelease(1995)THE READ-ALOUD HANDBOOK Increasing a giant treasury of great read-aloud books, A Penguin Book